

市民の願い実現に向けて

日本共産党
横浜市議団

利用者拡大の努力もせず「アプレ」を廃止するな あらき議員が反対討論

日本共産党のあらき由美子議員は、12月16日、議案と請願に対する討論を行いました。

「アプレ」は利用者拡大対策を

横浜市福祉保健研修交流センター条例の一部改正案は、利用者数の大幅な減少や収支不足などを理由に、同センター（ウィリング横浜、港南区上大岡）内の宿泊施設と体育室およびフィットネスルーム、スポーツジムなどのスポーツ施設「アプレ」を廃止するものです。

あらき議員は、「アプレ」に行って実情を調査。施設内の歩行専用プールが腰痛等のリハビリに適した条件に設定されているなど公立施設ならではの配慮があると評価。利用者は存続を強く望んでおり、利用者拡大の努力もせず廃止すべきではないと主張しました。

高速環状北西線計画は見直し

市道路認定議案には、高速横浜環状道路北西線が含まれています。北西線は総事業費2200億円（う



ち公費1150億円）を要する巨大事業であり、計画立案後30年以上が経過しています。

あらき議員は、計画当時と社会・経済情勢に大きな変化があり、東日本大震災に遭遇して国や経済のあり方にも変化が求められていることから、計画そのものを見直すべきと主張。整備理由の一つに保土ヶ谷バイパスの混雑解消をあげていますが、そのための事業をすでに国が着手しており、北西線の整備理由の検証が必要であると反対意見を述べました。

あらき議員は、中学校給食、保育予算、学童保育、教員数などに関する請願について、理由を明らかにして採択すべきと主張しました。

中学校給食の願いに背を向ける自・民・公・み

中学校給食の実施を求める請願が、横浜市学校給食をよくする会他142団体から提出されました。

担当常任委員会の審議では、公明党は「（現在行っている昼食のあり方に関する）調査結果が出た段階で早期結論をだしてほしい」と教育委員会に要望。自民党の女性議員は「給食を求める声、本当に多い。私自身も望んでいる」と述べましたが、同党の男性議員は「昼食も踏まえて多方面でいろい

ろ考えて結論を出すべきで、給食だけに限定するかたちではない」と不採択を主張しました。

日本共産党の白井まさ子議員は、切実な要望で毎年請願が出されており、ぜひ採択すべきと述べました。

4月の市議選で中学校給食を公約にあげた民主党とみんなの党は、委員会でも本会議でも、この請願に関して一切発言しないまま、不採択としました。

請願は何をもって賛否を決するのか

放射能関連の請願はすべて否決

今議会に、放射能関係の請願が9件提出されましたが、自民、民主、公明などの反対多数で、すべて不採択となりました。

健康福祉常任委員会ではそのうち5件が審議され、日本共産党の古谷やすひこ議員はその一つひとつに理由を述べて賛成しました。一方、他党派の議員は、みんなの党が紹介議員になった請願1つをのぞき、ほとんど発言なしです。

なお、これらの請願のうち6件は太田正孝議員（ネット・無所属クラブ）、3件がみんなの党の議員が紹介議員です。

請願内容で判断すべき

横浜市議会では、請願内容にかかわらず、請願者が日本共産党や太田議員と交流のある団体からの請願は否決されています。

請願は、請願内容が道理にかないう、市民に有益なものであれば、請願者が誰であれ、採択すべきです。

賛否理由を明らかにするのは

本会議や委員会の中で、賛否の理由を明らかにすべきですが、判断理由を述べるのは日本共産党と少数党派のみの場合が多いのが実情です。これで、市民の代表といえるのでしょうか。

12月議会での主要会派の態度

○：賛成、×：反対

議案・請願	共産党	自民党	民主党	公明党	みんな	ヨコハマ
議案：横浜市福祉保健研修交流センター条例の一部改正（ウィリング横浜の施設の一部廃止他）	×	○	○	○	○	○
議案：市道路線の認定及び廃止（一般市道および高速横浜環状道路北西線の認定、廃止）	×	○	○	○	○	○
請願：重度障害者医療費助成制度に関する意見書の提出	○	○	○	○	○	○
請願：教員採用における義務標準法の遵守について	○	×	×	×	×	×
請願：保育予算の拡充について	○	×	×	×	×	×
請願：学童保育の充実・発展について	○	×	×	×	×	×
請願：中学校給食の実施について	○	×	×	×	×	×

（注）みんな：みんなの党、ヨコハマ：ヨコハマ会

無料法律相談（弁護士が対応します）

市政、法律、交通事故、年金、金融、土地、住宅、教育、その他

- とき 毎週水曜日午後1時30分～3時
- ところ 横浜市役所内 日本共産党議員控室
- 連絡先 ☎045-671-3032 ☆要予約☆

◎相談は同一案件につき3回までです。

委員会傍聴記

どうすれば請願が採択されるかの 展望見えた委員会審議

私は12月12日、子ども青少年・教育委員会における「法律で定められた人数どおり正規教員の採用」「少人数学級の実現」「中学校給食の実現」「小学校給食の直営の存続」、以上4本の請願審議を、議会のモニター室で傍聴しました。

採択に賛成したのは、いずれも11人の議員のうち日本共産党の白井議員だけでした。

それぞれの請願に対して、山田教育長の答弁がありました。言い訳に終始する場面が多く、説得力を欠いたため、他党

からの発言や教育長への質問が多く出され、その内容も真正面から反対でなく、中学校給食への自民党議員の1人の賛成発言に見られるように、良心的な発言が目立ちました。

今後、市内各区で、請願に関わって、学校現場の実態がどうなっているかを具体的に伝えることなど、きめ細かく一人ひとりの議員への要請を強めることで、市議会として採択される展望が見えてきた審議だと感じています。

矢作富男（磯子区）

市政へのご意見・ご要望は日本共産党横浜市議団へ



大貫 憲夫
（団長・青葉区）

n-ohnuky@khh.biglobe.ne.jp



岩崎 ひろし
（副団長・戸塚区）

mail@iwasaki-hiroshi.jp



あらき 由美子
（南区）

mail2@araki-yumiko.jp



白井 まさ子
（港北区）

mail@shirai-masako.jp



古谷 やすひこ
（鶴見区）

y-furu3941@triton.ocn.ne.jp